

醫學會聯合會理事會全體會議



## ■平成2年度東京同窓会総会出席・欠席者氏名一覧 [敬称略]

\*欠席者氏名は、欠席のご連絡をいただいた方のみ掲載。

旧制	出席者名	欠席者名
1	藤田成孝	腰山巳代治 柴田 清
2		淡路千代治 佐藤圭介 並木信道 村岡洋三
3	石井洋二	板倉創造 小松英夫
4	後藤典二	石橋俊夫 栗生沢寛 小仲清一 近藤三郎 高田忠夫 高垣重雄 武藤裕宣 藤田成宣
5		金谷与十郎
6		安濃三郎
7		今立貞二 高橋富男 塚本信男 石山栄蔵
8	高原英夫	大山芳雄 久保田恒成 武衛尚道
9	佐々木博 高橋正太郎 草皆英二郎 早崎敬治	信太金昌 皆川紗武良 中田友也
10		淡路輝一 布谷善一郎
11	能上和男 安濃五平 清水栄三	石丸健次郎 木内 亨 小林健二郎 住吉忠三
12	今 久男 塚本淳逸	青木十三夫 泉 勇 神馬敏郎 奈良善四郎 真崎清次 平泉 修
13	勝永金一	相庭 等 打矢章一 工藤文一郎 佐藤 寛 安井哲彦
14	村木良二	石山栄一 鈴木鉦三郎 高橋隆雄 宮原茂悦
15	佐々木満 鈴木喜雄 吉田信一 伊勢真佐実 (能代)	草野英幸 興石祐爾 腰山光治 佐々木喜丸 田畑武雄 村田 守
16	熊谷洋三 近藤 誠	伊勢隆次 金丸 明 佐藤芳清 山田章二
17	梅田恭三 高橋義三 深井昭信	石川浩之 岩森榮助 金崎邦文 川村幸信 北林初治 工藤典夫 佐藤 功 仙台忠正 常井昭夫 畠仁也
18	伊藤利兵衛 高畑政宏	相沢昭一 愛沢鉄治 潮田 巖 加茂谷宏 長谷川良太郎 菊地栄一 塩谷昭二郎 柴田文夫 能登良治 森田繁雄
19	伊藤忠夫 千葉孝夫 佐藤達郎 坂本史郎 吉方盛恭 小林 肇	相澤秋和 加藤 武 日下部道夫 田口晋三 杉崎聰男 畠山淳一
20	高島 隆	佐藤信一 坂本逸郎 納谷正一 東海林毅

新制	出席者名	欠席者名
1	鈴木木夫	神馬芳統 金子隆太郎 五十嵐嘉久彌
2	吉田 裕 河田俊彦	小野 喬 飯坂勝美 小田鳴朗 金谷芳郎 佐藤眞一 塩谷隆二 七戸一幸 民谷慎一 日沼 聡 前田栄太郎
3	伊藤康孝	五十嵐資和 雄鹿春勝 北川京二 菊池弘吾 高橋宏和 保坂隆司 本間善夫 山谷正勝 渡辺利広 谷藤義郎
4	伊藤逸郎 草階郷甫 小林究明 須藤満雄 村井克自	石戸忠五郎 鈴木勝也 仙台鐵也 田畑久雄 土井啓有 吉田 博 安井浩一
5	相沢裕雄 清水良二 鈴木 博 館岡邦彦 田畑鉄男 矢口 裕	石岡卓司 大倉太助 桐越 誠 設楽義雄 鈴木恪悦 三田 登 細田了平 宮腰孝一 成田憲司
6	今村宏司 小山黎子 田久保光一	市川友之 越後陽一 金丸 正 金子勝信 神尾昌裕 河合雅子 木村信逸 金野哲夫 佐藤正名 佐藤邦夫 柴田幹雄 塚本昭次郎 中島正美 畑江道広 藤岡寛子
7	小貫 実 北島 茂 平川明三郎 小野純治 栗原俊一 須藤祥夫 高田嘉子 畠 豊彦	木藤昭男 工藤鉄也 工藤尊久 佐藤郁久男 佐々木胤磨 柴田邦子

8	岩見尚夫 金子秀雄 北村祐三 近藤勇夫 馬場ノリ 平川国一 松橋重美 堀良三 佐々木高博 八柳昭義 杉崎孝雄	板倉富彌 今立甲矢雄 長内明德 鎌田吉郎 神山正子 京敬一 佐藤三郎 佐々木弘高 塩山元久 鳴田拓爾 竹内 堯 豊沢充美 豊田 護 奈良弘司 原田幸朗 本庄敬雄 宮腰英彌
9	工藤 豊 佐々木隆 田中郁三 檜森 寛 野呂田徹義 若松正雄	石岡忠治 梅田政男 江川瑞宏 加賀義介 栗和田 嘯 栗原優子 工藤嘉明 斎藤秀夫 七戸節雄 高砂 浩 田村紀允 平川政宏 宮腰香児
10	穴山勝良 雄鹿豊彦 須田正巳 古内 仰 若林莞爾	大高良美 加賀恒成 柴田 武 鈴木 昇 高橋哲也 新川高信 三浦義輝 村岡公夫
11	石川正順 太田勝治 笹木広澄 下間弘道 鳴田雄右 本庄喜代彦 鈴木元紀 田中善明 宮腰瑞夫	赤塚修三 赤塚鉄男 国松英二 小林幹男 佐藤清弘 佐藤晃一 佐藤芙美恵 清水武久 竹内孝男 松岡興紀 吉田忠義
12	小形昇三 小島セイ 田口昌孝 藤田道義	荒谷 誠 石田邦明 熊谷幸夫 佐藤 亘 杉淵治康 武田 茂 千田浩一 野中啓右 平沢正三郎 山本義馬 山田圭一
13	神尾昌俊 城野攻一 布川隆治	大倉報三 加賀宗彦 加賀幸則 笠木宣也 北村幸雄 熊谷博雄 小林武廣 佐藤三男 須藤靖夫 檜森 隆
14	磯部 博 加藤 昭 小高 功 高田政勝 高谷 誠 奈良勝夫 濱谷裕一	石川義彦 大沢忠夫 小澤孝一 宮腰克也 森 喬夫 森田 弘 山田孝行 山本 敏 米沢忠良 渡辺允康
15	小林勝彦 齊藤宏行 清野勝子 武田 功 堀内忠人 矢木信章	越後谷達雄 戸山勇一 船山 稔 檜森忠義 福田健作 三浦節夫 渡辺誠子 石原恵美子 播磨谷謙也
16		梅田俊雄 越後昌樹 北林正晴 島山 昇 平澤正典 平塚徳子
17	佐々木正男 本庄瑞彦	相沢保紀 信太一高 高松睦夫 三谷洋志 柳谷和夫
18	浅野友城 大野 操 大山金四郎 坂田光男	男鹿谷浩市 工藤正樹 小林公雄 田村規清 畑山進 藤田辰夫
19	井上道晴 今野廣隆 小野津世子 小林雅夫 笹村八州 高松正行 橋本 悟 千葉礼子 高橋ヒサ子 日沼元久 若狭秀巳	浅野 壤 越後義明 大倉久史 加茂谷純一 工藤栄喜 武田 正 辻 敏 平塚たづ子
20	伊藤陽一	青柳信夫 柏木秀憲 鎌田邦明 川村 孝 菊池正巳 金野正道 坂田二郎 柴田真理子 森岡俊明 山田 豊
21	小笠原牧子 熊谷一美 菅原 涉	阿部 清 大高正典 小田切春美 工藤長昭 金野峻明 後藤幸一 佐藤 司 武田信雄 田村 猛 直島博明 島山輝一
22		熊澤朝子 佐々木博 柴田正信 林 信子 三浦和信
23	小河範也	阿部義三 加藤秋夫 高畑 仁
24	工藤俊一	菊池雄三 工藤雅信 山本良寿
25	高橋敦子	大山 等 小林 彰 佐藤義宏
26		伊藤幸彦 伊藤裕子 菊地勇作 桜田 勇 佐保田朋子 庄内俊恵 長岡幸夫 針金三弥 渡辺隆幸 金田千穂子
27		金田 優 高井一男
28	泉富士男 吉田真由美	
29		
30		
31		仙台英俊 鈴木裕美子 長谷川徹 安田光教

出席者 旧 制 33名 新 制 103 (女性11) 名 同伴者 4名  
招待者 11名 合計 151名  
欠席者 旧 制 89名 新 制 226名 合計 315名

## 市民憲章、市の花・木・鳥決まる

能代市（旧扇瀧村、檜山町、鶴形村、浅内村、常盤村を編入）

ちよつと古い話題になるが、市は50周年を迎えたことを機に、郷土を愛し、緑に囲まれた快適な環境作りを進めるため、昨年十月一日の市制記念日に市民憲章及び市の花（ハマナス）、木（クロマツ）、鳥（カモメ）を制定した。

憲章は、子供からお年寄りまでみんなに理解できる表現で、前文に能代の特徴を表した自然環境、歴史性を盛り込み、本文は自然・健康・文化・家庭・安全の五項目からなっている。

「前文」わたしたちは、広い日本海、緑の松原と豊かな流れの米代川に恵まれ、港と木材のまちとして栄えてきた能代市民です。わたしたちは、この美しい風土と先人の遺業に深く感謝し、明るく住みよいまちを築くために、この憲章をかかげます。

一、自然を愛し、緑をそだて、美しいまちをつくりまします。

一、健康で、働くことに喜びをもち、活気あるまちをつくりまします。

一、学ぶ心を育て、薫り高い文化のまちをつくりまします。

一、家庭を大切にし、心のふれあうあたたかいまちをつくりまします。

一、きまわりを守り、安全で清潔なまちをつくりまします。



市の花となったハマナスはバラ科の落葉灌木で、古くから能代海岸砂丘地にも多く自生し、かつては染料の原料として利用されたほか、その実はお盆には欠かせないもので、市民にとって愛着の深い花である。

また、能代市は海からの強い西風と海岸の飛砂に悩まされてきたが、多くの先人が植林に努めた結果、今では海岸一帯はクロマツの美しい樹林となり、日本一の規模を誇ると同時に、市民の憩いの場として親しまれている。

セグロカモメ、ユリカモメ、ウミネコなど、カモメ科の海鳥は四季を通じて能代港や米代川に飛来する。その白い飛翔は青い空、紺碧の海に美しく映え、冬には数万羽の群舞が見られる。カモメは市民にとっていはば身近な鳥である。

在京能代会 会長・宮腰 茂氏

事務局・安岡政勝氏

0473-53-1687

## ふるさと文化財保存に地道な努力

藤里町（旧藤琴村、粕毛村を合体）

町の教育委員会はこのほど小冊子「藤里の文化財―石像塔碑編（B6判・六十六ページ）」を刊行した。これは昨年刊行された「神社編」に続く第二弾で、町内百七基の石塔や石碑が写真入りで紹介されている。所在地や塔・碑の種類、建立年月日、碑文、大きさなどの説明がある。

最も多いのは記念碑で十八基、次いで今なお多くの人に信仰されている庚申塔が十七基、石灯笼が十一基、こま犬七基などとなっている。

また、の中には百六十年ほど前に建てられた宝昌寺境内の餓死霊碑や鹿瀬内沢国右林にある大正九年の藤駒岳での遭難死供養塔、昨年町内五カ所に建てられた菅江真澄歌碑も掲載されている。

町教育委員会では、町文化財保護審議会と合同で、藤里町の文化財の記録保存や町民の文化財保護意識の高揚をねらって、昨年「藤里の文化財シリーズ」として、七人の町文化財保護審議会委員が現地調査を担当し、町教育委員会事務局で写真撮影と編集を行って、年次計画で刊行物を発行する。なお、来年は「巨木名木編」を刊行の予定である。

在京藤里会 会長・加賀谷長市氏

事務局・藤里町役場

0185-79-2111

## バルセロナ目指す健脚を披露 峰浜村（旧沢目村、塙川村を合体）

昨年もこの会報の「ひと」欄で紹介した自転車の鈴木裕美子（新制31期）選手は、峰浜村岩子出身。その鈴木選手が五月の国際サイクルロードレースで、見事に日本の第一人者の貫禄を示した。

このレースは東京、名古屋、大阪を転戦して総合得点を争うものだが、第一戦の東京大会は日比谷シティ前をスタートして大井埠頭を周回する六〇・五七キロのコース。外国の一流選手十六名を含む四二名が参加した。レースは集団のまま終盤に入り、残り五〇メートルを団子状態でゴールにだれだれ込む展開になり、一位のタッベル（オランダ）選手にわずか百分の九秒及ばなかったものの、日本選手としては各大会を通じて日本人過去最高の二位でゴールを駆け抜けた。

鈴木選手は名古屋、大阪大会でも健闘。三つのレースを合わせたポイント制で争われる総合順位は、東京大会優勝のタッベル選手を抜いて



堂々の四位となった。一位エイコフ（アメリカ）、二位マイフィールド（アメリカ）、三位ホッジ（イギリス）と上位三人は外国勢。ホッジ選手との差はわずか三ポイント。総合順位の女子日本勢の過去最高は七位で、鈴木選手はこの記録も大きく塗り替えた。

三〇歳とベテランの域に入った彼女だが、バルセロナへの夢に向かってまだまだ果敢な挑戦は続けられている。

峰浜ふるさと会 会長・富岳智猛氏

事務局・峰浜村役場

01851761211

## 東京の一角にふるさとが出現

山本町（旧下岩川村、金岡村、森岳村を合体）

すでに恒例となった東京山本会は、昨年十一月浅草の台東区民会館で第4回総会が開催された。町からの出席者を含め約二八〇名の参加で、一年ぶりそしてそれ以上の再会を羨しむ声が会場一杯にみなぎりあふれた。会場には、秋田魁新聞や北羽新報の取材記者の顔も見られ、総会及び懇親会の模様は「きりたんぼ囲み懇談、踊りも披露、盛り上がる」と、写真入りで大きく報道された。

総会では、①会員相互の親睦と会員拡大、②山本町への情報提供、③ふるさとへの桜の植林など六項目の事業計画が決定された。その後お楽しみ懇親会に移り、郷土料理キリタンポを味わいながら、金岡・羽立の勇壮な「ささら」、

じゅんさい音頭などのアトラクションに、だれもがふるさとを満喫した。さらに、懐かしい恩師を囲む輪もあちこちにてきて、子供時代に帰ってはしゃぐ姿も印象的であった。

なお、東京山本会第5回総会は、平成三年十月二十日（日）、東京浅草・台東区民会館で開催の予定である。

東京山本会 会長・鈴木多助氏

幹事長・板倉富雄氏

事務局・袴田事務所

031360918584

## 青梅マラソンのもう一つの顔——あきたこまち

二ツ井町（旧二ツ井町、富根村、種梅村、荷上場村を合体、響村を編入）

号砲が鳴つてすでに数分、スタートラインを駆け抜けていく市民ランナーはまだまだ続く。

毎年国内外のトップランナーを含む一万五千人以上のランナーが参加する、市民ランナー憧れのマラソン大会である。その日本一の規模を誇る青梅報知マラソンは今年25回の記念大会。わが二ツ井町からも10キロの部、30キロの部に男女合わせて11名が参加し、全員見事に完走した。

しかし、二ツ井町の青梅マラソン参加はランナーだけではない。東京二ツ井会の協力もあって、今年もあきたこまちのおにぎり二万五千個余りが特別参加。おむすびの特別参加はすでに

五回目とあって、ランナーにもすっきりおなじみ。アツというまの品切れになり、町産ブランド米もいよいよこの大会のもう一つの顔になりつつある模様。



東京二ツ井会 会長・吉田 裕氏

東京事務局・桂田氏

0424-84-0151

## ブナの森で心を豊かに

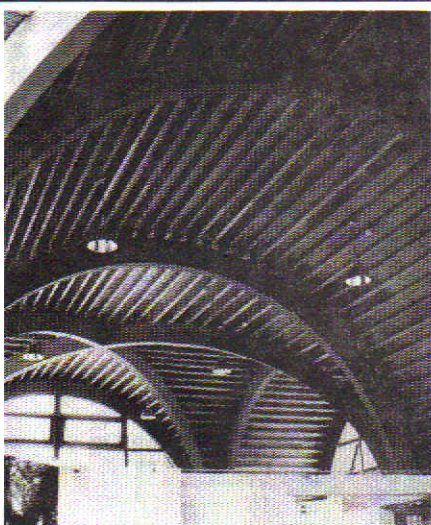
八森町（旧八森村、岩館村を合体）

最近のレジャーは、観光や消費型から心の豊かさや充実を求める方向へと変化している。昨年、わが町に県が建設した森林科学館（八森ぶなっくランド）はその要求にぴったりの施設で、今各方面の注目を集めている。

丸いドーム型の屋根を持つ建物はすべて秋田杉で作られており、天井は組み合わされた太い

梁のアーチが力強く、その美しさに訪れる人々はしばし感嘆の吐息をもらす。

内部には世界一と言われる白神ブナ原生林の様子が生きたままに展示されている。ブナの森がもたらす美しい自然や大切な働き、豊かな恵み、ブナと人との関わりの中に生まれた独特の文化についての情報ができる限り盛り込まれて、森を育て自然を守ろうとする意識を高揚するのに格好の施設となっている。建物の周囲には、炭焼き釜、キノコの森、生



産の森などが整備されていて、希望者はそこで体験を通じた学習が行えるようになっていた。また、清流真瀬川の回りの遊歩道、あずま屋、真瀬川を渡る橋も完成しており、四季折々の変化を楽しみながらの散策も健康的である。

東京八森会 会長・加賀谷光丸氏

事務局・八森町役場

0185-77-2111

## 房住山の山開き——好評な自然なまの登山道

琴丘町（旧鹿渡町、上岩川村を合体）

六月二日、恒例の房住山山開きが町内外から八十人の参加で行われた。房住山は古くから修験の霊場として知られ、坂上田村麻呂と長面三兄弟の攻防などを記した「房住山古伝記」の舞台として地名伝説も豊富である。江戸時代には三十三観音も安置され、信仰の山としても有名なほか、新秋田観光三十景にも選ばれている。昨年からの滝の上登山口（Aコース）、小新沢林道登山口（Bコース）、二ツ井側登山口（Cコース）の三つが採用されている。

この時期は山菜も豊富で、登山道のすぐ近くに竹の子、ミス、フキなどたくさんある。それぞれの登山口から登った参加者は、今年も元気に頂上に集合、そこで安全祈願祭を行った。天気は薄曇りながら、頂上からの視界は三六〇度。森吉山、太平山、大湯村、日本海が一望できて、参加者は登山の疲れも忘れ見とれていた。下山後の昼食は地元小新沢自治会の山菜汁のサービスもある、新しくできた滝の上林間広場。また、臨時の郵便局も設置され記念品などが販売された。「あまり手を加えず自然のままなところがよい。来年はCコースに挑戦したい」「観音像に歴史的魅力が感じられ、深山の雰囲気がいい」などと参加者の感想はおおむね好評だった。



一月二六日東京八重洲富士屋ホテルで第七回関東琴丘会が開催された。町関係者十七名が地鶏、ダマコモチ、馬刺しなどを持参して上京。会員は懐かしいふるさとの味に舌鼓を打ち、できたての町民音頭と琴丘町史の披露に耳を傾けながら、ふるさと発展のために大いに意見を交換し合った。

関東琴丘会 会長・腰山巳代治氏

事務局・琴丘町役場

0185-87-2111

## 完成近い八竜運動公園

八竜町（田鶴川村、浜口村を合体）

町は、昭和60年度から建設省のカントリーパーク事業を導入し、町民が快適に過ごせる住環境整備やふれあい・憩いの場所造りを目指してさまざまな取り組みをしてきた。メイン施設の町民体育館、駐車場、自転車置き場、あずま屋、準天候型のゲート

ボール兼テニスコート、丸太材を活用した舟形の遊具、水洗トイレの設置などと、すでに公園としての様相を整えつつある。

今年度も、展覧会、休憩施設、築山などを建設中である。中でも、鉄筋コンクリート造りの展覧会口は、高さが5メートルもの擬岩風に仕上げられ、内部の螺旋状階段を登れば、公園内が全部見渡せるものとなる。

来年以降の施設整備と合わせ、ここが八竜運動公園として町民に活用され、公園以上の機能を發揮して、町作りの核となることが今から期待されている。昨年十二月一日首都圏在住の八竜町出身者で組織

する「東京八竜会」の総会が東京の浅草で開催された。総会には、百七十名の会員が参加し、町長始め町から上京した三十三名と懇談を深めた。会場のあちこちに一年ぶりの再会を喜び、ふるさと談義に花を咲かせる姿が見られた。

東京八竜会 会長・川村幸信氏

事務局・八竜町役場

0185-85-2111

## 青森県西津軽郡岩崎村

## 村の開発振興に本場のサンタも一役

村は、昭和63年5月、日本サンタランドいわさき計画がスタート以来、同年サンタクロース・スピリット委員会設立、平成元年サンタランド協定締結、サンタポスト開業、サンタクロース郵便局開局、平成2年リフレッシュ村開業（ログハウス）、フィンランド・ラヌア郡との姉妹都

市締結、サンタクロースセミナー開催など、日本サンタランド実現に向かっている準備が着実に進められてきた。またその間、フィンランドからサンタクロースを村に招き、ヨールブッキ（サンタ）祭を開催するなど、村内に限らず広く日本に「愛」と思いやり、そして希望のサンタクローススピリットを普及し、夢とロマンを与えようとするとともに、フィンランドとのいっそうの友好を深める努力が続けてきた。その結果この4月、第3セクター「サンタランドいわさき株式会社」を誕生発足させることができた。

平成5年の開業に向かって、いよいよ第一期工事としてサンタの家、宿泊施設サンタロッジ、トナカイ牧場、トロールの森レストランなどの建設着工の運びとなる。

ふるさと十二湖人会 会長・堀内隆城氏

事務局・石戸秀晴氏

0471-43-0008



## 松陵スポット&トピックス

### 先生とあだ名

みちのくの遅い花の季節もようやく間近に迫ろうかというある日の昼下がり、校舎の一番端にある理科準備室では、いつものように教師たちが下校間際の雑談に花咲かせていた。

そこへ新入生とおぼしき生徒が入ってきて、「あの一、カシヨウ先生いねスカ」「なぬ一、カシヨウ先生だー」と、W先生。今にも鼻からずり落ちんばかりの眼鏡越しに、生徒をジロリとひとにらみ。

生徒、わけもわからず恐縮して、「あの一、先輩がカシヨウ先生いねが聞イでこいてしゃべたス」

「それだば、オメー、先輩にからかわれたんだ。本校にそした先生はいねよ。ちゃんとW先生と言わねばダメだ」と、ヤマイモことK先生が懸命に笑いを噛み殺しながら諭す。

「いやー、新入生が先生捕まえて、いきなりあだ名で呼ぶというのは、開闢以来の不祥事でねスカ、先生」と、ブランクトンことA先生が、独特のナットウのような粘っこい口調でまぜっかえす。

昔、どこの高校でもこのような光景がいつ出現してもおかしくないほど、教師にあだ名はつきものだった。今、生徒から愛称としてのニックネームを奉られる先生がきわめて少ないと聞く。その善し悪しはさておいて、あだ名とともに古きよき日の恩師の雄姿を一時懐かしむのも一興かと思う。

#### 能中時代の懐かしい先生

西田平一校長（ヘッチャ）  
新家利一校長（ウルメコ）  
高橋一郎校長（ウマッコ）  
黒瀬達也教頭（クマソ）  
鈴木勇先生（漢文・ヒラメ）  
小竹寛治先生（英語・ウルフ）  
佐久高士先生（歴史修身・テロ）  
相庭久三郎先生（国語・ピストル）  
南初喜先生（歴史修身・ケシズミ）  
石丸金重先生（数学・ザサン）  
田山雄二郎先生（数学・センプリ）  
川野卯一先生（数学・ナンバ）  
小葉田亮先生（地理・コバゲ）  
上原俊一先生（国語・ヤギ）  
立石栄吾先生（化学・タテガモ）  
森蕃先生（数学・アカブタ）  
徳原俊三先生（英語・ビール）  
太田口政治先生（体育・ウマッコ）  
野村政治先生（図工・アカヒゲ）  
衛藤正敏先生（物理・ジャイアント）  
田村照一郎先生（英語・ライオン）  
近江静雄先生（植物・ホシミドロ）  
村松四郎先生（化学・ムジナ）  
吉田勇三先生（農業・カクセイキ）  
須田定基先生（柔道・ガメ）  
大山会三郎（音楽・シャクシ）  
高橋岩五郎先生（柔道・ガン）  
武衛岩雄先生（剣道・ジッチャ）

以上、この資料は塚本先輩からお借りしました。

## バレー部東京OB会発足

同窓生であり、恩師であり、能代高校バレー部の育成に多大な貢献をなされた大原義正氏の1周年にあたる平成3年4月13日、「大原義正氏をしのぶ会」が渋谷で開かれました。能代から能代高校バレー部OB会会長武田重一先生も上京され、教子である菅原貞敬氏からはせつせつたる追悼が献じられるなど、しめやかな中にも、多数の同窓生が列席され、万事明るいことがお好きだった大原先生のご遺徳を偲ぶにふさわしい、陽気でなごやかな雰囲気に満ちあふれた会に終始いたしました。

これに先立ちまして「能代高校バレー部東京OB会」の設立総会が催され、同会の結成が決まり、近藤誠氏より大原先生のご遺影に東京OB会発足の報告がなれました。

なお、同OB会運営のための年会費は、3,000円とさせて頂きましたので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

能代高校バレー部東京OB会設立発起人  
塚本淳逸 近藤 誠  
菅原貞敬 石川輔宏

会長 近藤 誠

〒242-03 神奈川県海老名市柏ヶ谷967  
モア ステージ海老名320

TEL 0462-33-0026

連絡先 八柳昭義

〒164 中野区中央5-7-1(株友和内)  
TEL 03-3383-2111

### 春の叙勲・教育功労賞

鎌田 宏先生 平成2年、勲四等・旭小綬賞受賞。

鎌田先生は、旧制能代中学・能代南高校で国語を教えられ、県教委指導主事、由利・本荘高校教頭を歴任。44年鷹巣高校校長、県教育庁主席参事のあと、49年能代高校校長になった。57年能代市教育長となり、59年9月の退職まで三期、9年間同職を務められ、高校教育振興ならびに地方教育行政に多大な貢献をなされた。

高橋直三先生 平成3年、勲四等・瑞宝章受賞。高橋先生は、一昨年、東京の総会席上で先生のお話にもあった通り、昭和21年4月旧制能代中学に物理・化学の教師として赴任以来、35年3月まで能代高校で教鞭を取られたが、同年4月能代商業高校教頭、45年同校校長に昇任。52年角館高校校長で定年を迎えるまで、広く県内各地で高校教育振興に貢献された。



## 生徒状況

(1) 在学生徒（普通科のみ）

学年	男子	女子	合計	出身	能代市	山本郡	北秋田	南秋田	他県内	青森県	他県外
1	228	104	332	中 学 校	177	117	23	5	4	6	0
2	226	100	326		191	96	21	6	6	4	2
3	236	94	330		211	99	5	6	3	4	2
合計	690	298	988		579	312	49	17	13	14	4

(2) 部・同好会加入状況（加入率68%）

硬野球	軟野球	軟庭球(男)	軟庭球(女)	サッカー	登山	バスケット	バレー	卓球	柔道	剣道	体操
50	20	15	26	35	6	23	16	6	13	15	11
陸上競	水泳	空手道	吹奏楽	演劇	文芸	新聞	写真	美術	囲碁・将棋		JRC
33	13	18	52	20	23	14	27	12	4		9
放送	茶道	フォーク	INC	科学	無線	アニメ	歴史	映画	応援		
20	39	7	19	24	11	15	16	44	14		

## 卒業生状況（卒業後の進路）

就職の内は県内就職数

年度	卒業数	国公立大(合格)	私立大(合格)	国公立短	私短	専門各種	小計	就職	その他
60	322	63 (72)	73 (107)	4	7	40	187	70 (33)	65
61	366	59 (77)	101 (178)	7	5	36	208	58 (25)	100
62	385	75 (105)	92 (132)	6	11	32	216	47 (21)	122
63	324	44 (65)	84 (129)	6	8	37	179	47 (26)	98
元	327	55 (77)	95 (133)	8	12	38	208	49 (17)	70

## 教職員組織

校長	教頭	教諭	実習助手	養護教諭	事務職員	技師	小計	臨時講師	臨時職員	校医	合計
1	1	46	1	1	4	2	56	3	2	5	66

教諭 男子 41名 女子 5名 計 46名

教諭平均年齢 男子 45.2歳 女子 43.1歳 45.1歳

私立大学	63年		元年		2年		私立大学	63年		元年		2年	
	合格	進学	合格	進学	合格	進学		合格	進学	合格	進学	合格	進学
慶応義塾			5	3			神奈川	5	3	5	4	4	3
國學院	3	3	3	2	2	2	神奈川工業			1	1		
国際基督教	1	1					鎌倉女子		1			1	
国士舘	3	2			1	1	関東学院	2				1	
駒澤	3	1	6	2	1	1	産能	1		1	1		
実践女子	1	1					横浜商科業	1					
芝浦工業	1	1					金沢工業					1	1
上智	2	2			1	1	松本歯科	1					
昭和					1	1	常葉学園	1					
昭和女子			1	1	2	2	愛知学院	1			1		
専修	3	1	2	2	2	2	名古屋商科	1		1	1		
大東文化	2	2	5	1	5	3	南山城					1	1
高千穂商科			2	2			名産業	1					
拓殖	1	1					京都産業	1	1				
玉川	1	1	1	1	1	1	京都橘女					2	2
中井	2	1	3	1	4	2	同志社					2	
田塾			3	2			立命館	1	1	1	1	1	1
帝京海	2	2	4	3	1	1	龍谷	1	1	4	4	6	3
東京音楽			1				近天	1	1	1	1	1	1
東京経済	2	1	2	2	1	1	日本文	1	1				
東京女子	1	1			1	1	東京電	1	1				
東京農業			1	1	2	2	第一工	1	1				
東京理科	3	3	2	1	1	1	合計	133	89	129	84	133	95
東洋舎	6	4	9	4	3	3							
二松学	1	1	1		2	2							
日本歯科	4	2	2	1	6	6							
日本女子	1	1					最近3年間						
日本体育			1	1	1	1	進学状況	合格	進学	合格	進学	合格	進学
日本体			1	1			国立大学	103	73	64	43	69	52
文化女					1	1	公立大学	2	1	1	1	7	3
政法	4	2	4	1			管外学校					1	
武蔵治	1	1	1				私立大学	133	89	129	84	133	95
明蔵工			1	1			(合計)	238	163	194	124	210	150
明治学	3	2	6	5	3	3	国立短大	4	3	2	2	8	4
立教			2	1			公立短大	5	2	4	4	7	4
立正光	3	2	5	2	4	3	私立短大	20	12	10	8	22	12
和早			1	1			専修・各種	37	30	39	37	43	38
早稲	5	3	2	2	1	1	(合計)	66	47	57	51	80	58
麻布					1	1	総計	304	210	251	179	290	208



- " 28 体操部インターハイ優勝、梶原義美個人優勝  
 " 30 体操部インターハイ優勝  
 " 31 体操部インターハイ優勝、平川文雄個人優勝。バレー部インターハイ優勝。体操部国体優勝  
 " 32 体操部インターハイ優勝、辻健一個人優勝。バレー部インターハイ準優勝。体操部国体優勝。バレー部国体第3位  
 " 33 体操部インターハイ優勝、建部盛蔵個人優勝  
 " 34 体操部インターハイ優勝  
 " 35 体操部インターハイ優勝  
 " 36 体操部インターハイ優勝、小野喬夫個人優勝。体操部国体優勝  
 " 37 大山保夫インターハイ柔道第3位  
 " 38 硬式野球部甲子園出場  
 " 39. 4. 1 ニツ井分校秋田県立ニツ井高等学校となる  
 " 40. 9. 22 創立40周年記念式典挙行  
 " 41 体操部インターハイ準優勝  
 " 42 体操部インターハイ準優勝  
 " 43 杉原正規インターハイ陸上競技・走高跳第3位  
 " 45. 11. 5 能代高校校舎改築期成同盟会設立  
 " 47. 11. 21 新校舎建設第1期工事着工  
 " 48. 8. 31 新校舎第1期工事（普通教室棟）完成  
 " 49. 7. 30 新校舎第2期工事（特別教室及び管理棟）完成  
 " 49 軟式野球部国体第3位  
 " 49. 11. 1 新校舎に移転授業開始。体育館完成  
 " 50. 3 セミナーハウス・陸上競技場完成  
 " 50. 8 水泳プール完成  
 " 50. 9. 30 校門建立（同窓会寄付）  
 " 50. 10. 1 自在の像除幕（旧制19期生小林肇氏寄付、新制11期生戸松恭一氏制作）  
 " 50. 10. 3 校舎改築落成及び創立50周年記念式典挙行  
 " 50. 12. 16 柔剣道場完成  
 " 51. 10. 28 硬式野球場完成  
 " 52 硬式野球部甲子園出場  
 " 53 硬式野球部甲子園出場  
 " 53. 11. 16 テニスコート完成  
 " 54. 2 軟式野球場整地並びにバックネット完成  
 " 54. 8. 28 軟式野球部インターハイ準優勝  
 " 54. 12. 19 第二体育館、渡り廊下、部室完成  
 " 55. 5. 23 吹奏楽器整備  
 " 55. 10. 15 軟式野球部国体優勝  
 " 56. 2 校歌の掲額（旧制19期生小林肇氏寄贈、旧制11期生山田顕一氏揮毫）  
 " 57. 8. 30 軟式野球部インターハイ優勝  
 " 58. 5. 26 日本海中部地震により校舎の一部損壊  
 " 58 軟式野球部国体第3位  
 " 59 軟式野球部国体第3位。館岡潤インターハイ体操床第2位  
 " 60. 6. 10 創立60周年記念事業・黒松植樹  
 " 60 軟式野球部インターハイ第3位。館岡潤インターハイ体操床第3位  
 " 60. 10. 3 校訓の掲額（旧制15期生参議院議員佐々木満氏揮毫）、創立60周年記念式典挙行  
 " 61. 1. 17 創立60周年記念事業・体育館放送設備全面更新  
 " 61. 5. 6 創立60周年記念事業・生徒用自転車置場舗装  
 " 61. 5. 17 創立60周年記念事業・黒松ほか植樹  
 " 62. 5. 15 昭和61年度秋田県学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部県知事賞受賞  
 平成 1. 4. 1 65分授業の実施  
 " 1. 11. 17 雨天体育館完成

## 学校概況

所在地 〒016-01 秋田県能代市字高橋2-1 TEL 0185-54-2230

学校創立 大正14年4月6日〈卒業生総数 14,369名〉

校地校舎 校地面積 91,711m

校舎面積 11,431.19m

管理棟、教室棟、大体育館、小体育館、格技場、雨天体育館、プール、部室棟、その他

### 教育計画

建学の精神 『一国文教ヲ以テ興リ、一国文教ヲ以テ亡ブ』

校訓 『至誠力行』

- 教育目標
- 1 真理を追究する旺盛な精神力と広い視野に立った熱意とをもって、事に当たることのできる人間
  - 2 正義を愛し、責任を重んじ、自主的の行動できる人間
  - 3 自然に親しみ、人間を愛し、国際社会にも貢献できる協調性に富んだ、心身共に健康な人間

- 本年度目標
- 1 清く正しく、真心をもった生活をできるようにする。(克己誠実)
  - 2 進路目標の達成に向かって、自ら積極的に学習できるようにする。(自発学習)
  - 3 心と体を鍛え、本校の名声を高める部活動に主体的に励むようにする。(部活精励)

- 重点課題
- 1 実効ある65分授業の構築
  - 2 進学対策、部活動対策の検討と実践
  - 3 教育環境の将来構想の策定

## 沿革概要

- 大正13.12.23 秋田県立能代中学校設立認可
- 〃 14. 4. 6 第1回入学式挙行(2学級、秋田県工業講習所にて授業開始)
- 〃 14.11.11 校舎を新築の体操場に移転
- 〃 15 父兄会創立、校旗制定、校歌制定
- 〃 15. 9.23 校舎落成式挙行(以後開校記念日と定む)
- 昭和 5. 4. 1 同窓会創立
- 〃 5.10.30 校訓制定
- 〃 8 校章制定
- 〃 12 体操部明治神宮大会優勝
- 〃 16. 4. 1 学級増加となり3学級募集
- 〃 17 中村史朗明治神宮大会体操個人優勝
- 〃 19. 2.15 柔道場、銃器庫を残し校舎全焼。長根町仮校舎に移転
- 〃 20. 4. 1 学級増加となり4学級募集
- 〃 21 体操部第1回国体優勝、鍋谷鉄巳個人優勝
- 〃 22. 1.30 能代中学再建同盟結成
- 〃 22 体操部国体優勝、小野喬個人優勝
- 〃 23. 3.11 樽子山新校舎に移転(能代市追分町)
- 〃 23. 4. 1 新学制実施。秋田県立能代南高等学校と改称
- 〃 23. 6. 1 定時制課程、二ツ井・藤琴・八森・常盤分校付設
- 〃 23. 9.23 再建校舎落成式挙行。校歌・校章改定
- 〃 23 体操部第1回インターハイ優勝、小野喬個人優勝。体操部国体優勝
- 〃 25 体操部インターハイ優勝
- 〃 26. 4. 1 男女共学実施
- 〃 26 体操部インターハイ優勝
- 〃 27 体操部インターハイ優勝、鈴木恪悦個人優勝。体操部国体優勝
- 〃 27.12. 5 卒業生鍋谷鉄巳、小野喬両氏ヘルシンキオリンピック出場記念の記念碑を校庭に建立
- 〃 28. 4. 1 秋田県立能代高等学校と改称

## 秋田県立能代高校東京同窓会会則

- 第1条 本会は秋田県能代高等学校東京同窓会と称する。
- 第2条 本会は能代高等学校を卒業、又は在籍し、東京及び東京近郊に居住する者は、総てその入会の資格を得るものとする。
- 第3条 本会は同窓生各位の親睦と相互の繁栄を図り、以て郷土の発展と母校の興隆に寄与するものとする。
- 第4条 本会は幹事を置く。但し、人数は制限しない。任期は定めない。
- 第5条 幹事の内より、会長1名・副会長2名以上・会計1名以上を置く。又、名誉会長及び顧問を置くことが出来る。但し、任期は2年とし、留任は妨げない。
- 第6条 本会の運営に当り事務局を設ける。
- 第7条 本会の運営一切の事項については、幹事会に一任する。
- 第8条 本会は年1回総会を開催する。
- 第9条 本会運営費は、総会開催時に若干各位が納付するものとする。但し、金額に関しては総会開催時に幹事会がこれを定めるものとする。
- 第10条 納付された運営費は返還しない。
- 第11条 本会の会計年度は、毎月10月1日に始まり、9月末日を以て終わる。

### あ・と・が・き

能代高校東京同窓会と改称以来、今年でまる10年を迎えようとしております。その記念すべき総会を迎えるに当たって、事務局としてはいろいろな企画もあり、また会員諸兄姉へのお願いなども盛り込みたいとの意向から、会報のNo4の刊行がたいへん延び延びになってしまいましたことをまずお詫び申し上げなければなりません。特に、湾岸戦争の勃発は避けられないと見られた時期、お忙しいさなかにわざわざ巻頭のお言葉をお寄せいただいた高橋正太郎先輩には、せっかくのご卓見が、なにか間の抜けた頃の発表となってしまいましたこと、誠に申し訳なく思っております。

例年どおり、平成2年度の総会の状況とともに、郷里の近況などをあしらった内容で構成いたしました。郷里の近況につきましては、各地からお寄せいただいた市町村便りのほか、能代市役所東京駐在所の布川隆治総務部参事に、たびたび熱弁をふるっていただきました。会報の発行以来、現在の市町村名では、上京した当時の郷里の面影が思い浮かべにくいなど、いろいろ貴重なご意見をいただいておりますが、今後ともよろしくご指導・ご協力のほどお願いいたします。

〒164 東京都中野区中央5丁目7番1号 株式会社 友和 内  
秋田県立能代高等学校 東京同窓会 事務局 ☎03-3383-2111(大代表)  
編集：杉崎孝雄(新制8期)